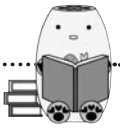
自治基本条例とまちづくり⑰



今回は、12月に開催した「地域づくりと協働の講演会」の内容と勝幡地区コミュニティ推進協議会で始まった地域づくりについてご紹介します。

【講演会の内容　　講師：高崎経済大学　櫻井常矢氏】

高齢化、人口急減など地域の課題が多様化、深刻化し、地域で地域のくらしを支えることが求められています。地域のくらしを支えることは、地域づくりであり、地域づくりは、地域の課題を解決することです。

地域づくりのプロセスで大切なことは、地域の人々の話し合いにより合意形成をすること。話し合いをとおして、地域の課題や解決の方法を共有しながら地域課題を解決していくことが地域づくりです。「どんな地域にしたいか」「何のための活動なのか」など目標や将来像を地域で話し合って共有しましょう。

講演会をきっかけに、勝幡地区コミュニティ推進協議会で勝幡学区の地域づくりの話し合いが始まりました。地域の目指すべき姿を考えるため、地域の方が集まって、月１回程度、地域の魅力や課題を出し合っています。地域には、様々な魅力や課題があります。地域の将来像や課題について、地域で話し合ってみませんか。

地域の魅力、課題を出し合いまとめています

各グループの意見を共有しています

問　市民協働課　☎(55)7113

あいさい見聞録

その33　～すももももものうち～

２０２１年は東日本大震災（２０１１年）から10年です。東日本大震災の時にも人々の価値観が変わりましたが、昨年（２０２０年）コロナ禍が起きるとは想像できなかったと思います。その一方で、文化について深く考える良いきっかけにもなりました。日本人の生活、その文化は四季が基本となっていると思います。２０２１年は愛菜（あいさい）の四季を訪ねます。

春（４月）は、ほとんどの植物が芽吹きの季節です。この時期の花といえば桜でしょう。桜は梅、そして、李（すもも・酢桃）や桃と同じバラ科、李も桃も桃の内です。桜は日本原産の品種が多く、染井吉野（そめいよしの）に代表されるように花を愛でるために品種改良もされています。ところが、食用になるとチェリー、さくらんぼ（桜桃（おうとう））。こちらは海外から持ち込まれた品種で、大昔に中国から伝来した桃や梅と比較すると新しい（江戸時代末期以降）品種のようです。

さて、アメリカ移民の先鞭となり、丸島コロンブスとして知られる山田芳男氏らは、帰国後、桃の栽培を始めたと伝わります。伊勢湾台風で壊滅的な被害が出るまでは、多くの農家で栽培されていたそうで、今でも桃や梅の樹を見かけます。ただ、地球温暖化で花期が早くなって、広報が配られる頃には、小さな実がなっているかもしれません。

河津桜

李（すもも）

桜桃（サクランボ）

問　市観光協会　☎(55)9993